



遅しい気力と体力の育成	3 心身の成長・発達について理解し、自らの命を守り健康の保持増進に取り組む子供	(4) 基本的な生活習慣の確立と、健康や体力向上の実践力・判断力の育成	① 体力朝会の実施・改善 ② 生活習慣の確立とネット依存防止対策 ③ 食に関する指導の計画的実施	・新体力テストで全国平均以上の項目を75%以上  ※参考資料 ・新体力テスト（全国平均値、前年度個人値との比較） ・運動に対する意識調査アンケート ・生活づくりに対する取組やメディアコントロールチャレンジの結果 ・栄養教諭等による食育授業について 等	75%	70%	93%	3			○新体力テストにおいて、全国平均を上回った項目は96項目67項目だった。「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」において全国平均を下回る学年が多く見られたとともに、低学年においては「握力」が下回っていた。一方で、前年度個人値との比較ではほとんどの児童が半数以上の項目で力を伸ばしていた。 ○5年生において、「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」という質問への肯定的回答は100%であった。 ○体育の授業に加え、体力朝会や学級遊びなど日常的に体を動かす機会を設けることで、運動に対する児童の意識を高めていると捉える。 ○生活づくり週間とメディアコントロールチャレンジについて、1回ずつ実施した。目標達成には個人差があり、集団への指導以外の工夫について検討する必要がある。 ○担任と連携し、給食時間の指導や特別活動等の教科等における食に関する指導を実施することができた。児童が自分ごととして捉え、知識・技能を身に付けていくために、担任等と連携した継続した指導が必要である。	①引き続き体力朝会を計画的に行うとともに、体育の授業の初めの5分間で実施するサーキットトレーニングを推奨していく。新体力テストにおいて課題が見られた種目において、再度計測する（10月末）。その際には、自身の記録や全国平均を参考に、目標をもって取り組むことができるようにする。 ②中学校と連携し、生活づくり週間およびメディアコントロールチャレンジの取組を継続する。また、実態に応じて個別指導や保護者への呼びかけを行う。 ③食に関する指導の年間計画に基づき、計画的に実施する。食事マナー等に課題がみられるため、継続的に担任と連携し指導を実施する。	生活部	A	・日常生活において、体を使う（手伝い等）が必要だと思います。メディアコントロールと合わせ、日頃の生活習慣の向上を指導してほしいと思います。 ・握力等、自分で計測できる項目については、いつでも計測できる場所に測定器を設置しておくのも良い取組だと思います。 ・好き嫌いなく、完食できているだろうか。食育で大きく成長していく児童たち。充分栄養を考え、しっかり食欲を養ってほしい。マナーも大事である。
信頼される学校づくり	4 保護者や地域・関係機関と協働し、適正な運営ができる学校	(5) 計画的な情報発信と働き方改革の推進	① 地域とともにある学校づくり（保護者・地域、校種間の連携推進） ② 学校便り、学級便り等での積極的な情報発信 ③ 働き方改革・業務改善の推進	・保護者アンケートの満足度・信頼度 肯定的回答 90%以上	90%	94%	104%	4			○達成値94%、達成度104%。保護者アンケートの全項目で肯定的評価の割合は90%以上であった。特に肯定的評価の割合が高かった項目は「学校は分かりやすい授業の工夫に努めている」「学校は体力づくりに積極的に取り組んでいる」であった。本校の職員が、日々授業改善に努めるとともに、積極的に参観日や運動会等で、活躍する児童の姿を公開・発信した成果と考える。また「よく当てはまる」と回答した割合が最も高かった項目は「学校は安心安全な学校づくりに努めている」であった。不祥事防止研修を毎月行うことで、職員の規範意識が高まり、適切な対応ができていることが、保護者の信頼度へつながっていると考える。 ●学年によって、保護者の肯定的な回答の割合に開きがあった。組織的な取組が十分でなかったためと推察する。 ●職員アンケートで肯定的評価が最も低かった項目は「自分は、時間内に仕事が処理しきれている」で、23%であった。担当業務に偏りがあったことが原因と考える。保護者の満足度・信頼度を高めるためにも、より業務改善を進め、児童と向き合う時間を確保する必要がある。	①保護者の信頼度をさらに高めるため、毎月行う不祥事防止研修に加え、三和駐在所や臨床心理士等、専門機関や専門家との連携を進める。また、より地域の協力を得ながら授業改善を進めることで、一層保護者の満足度を高める。 ②定期的なHP更新や効果的なテトルの活用等、児童が活躍する姿を保護者や地域等へタイムリーに情報発信していく。 ③授業や行事等を隣接学年合同で行ったり担任外がT2として個別指導したりする機会を意図的に設定する等、組織で児童の学びを支えていく。また児童と向き合う時間を確保するために、担当業務の見直しや日課表の変更、行事の精選等を行う。	教頭	A	・より地域の協力を得ながら、業務改善やタイムリーな情報発信をするともに、地域ぐるみで児童の学び（知・徳・体）を支えたり、児童と向き合ったりすることが大切。 ・大きな変化への抵抗感や多忙などの理由で十分に現在の教育改革に対応できていない教師や学校も残っていることと思います。これからは教師の負担軽減等に向け、さらに踏み込んだ取組を行い、各学校の授業改善や義務教育の水準の維持向上を図ることが必要だと考えます。関係者一同が一体となって進めていくことこそ大切であると思います。

\* 達成度＝達成率÷目標値×100

\* 評価 4：目標を達成した（達成度100以上） 3：目標をおおむね達成した（達成度85以上～100未満） 2：目標をやや下回った（達成度85未満～60以上） 1：目標を大きく下回った（達成度60未満）